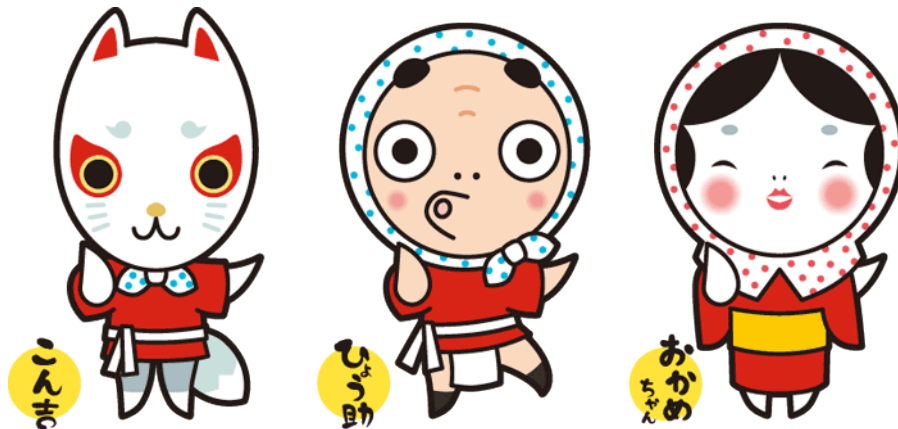
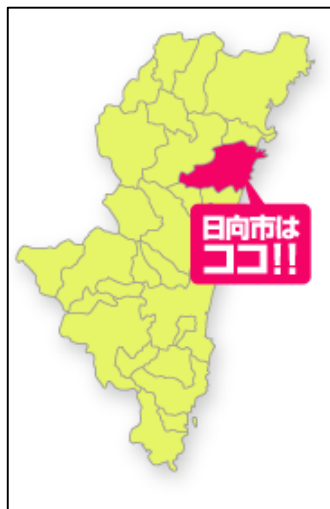


生活困窮者支援を通じた地域づくり

日向市社協の取り組み



日向市生活相談・支援センター心から
センター長 松永 茂晃



総人口	61,098人（2017年10月） 年少人口構成比（0～14歳）14% ※県13.5% 老年人口構成比（65歳～）30.9% ※県31.0%
生活保護率	13.8‰（2017年9月） ※707世帯・845人（未就学10人、小学12人、 中学10人、高校15人）
有効求人倍率	1.05（2017年8月） ※国1.52、県1.40
心から 新規相談状況	162件（2016年度） ※相談世帯に18歳未満の子が属する 43件（約27%）
その他	○準要保護児童生徒数（2016年3月） 小学生13.1%、中学生18.4%、全国15.6% ○離婚率 3.97（2015年年度）※国1.81、県2.10

“社協ビジョン”
「社協がめざすもの」
「社協将来像」

【平成25年～平成29年】

地域住民が地域社会で「孤立」
“しない” “させない” 仕組みを創る

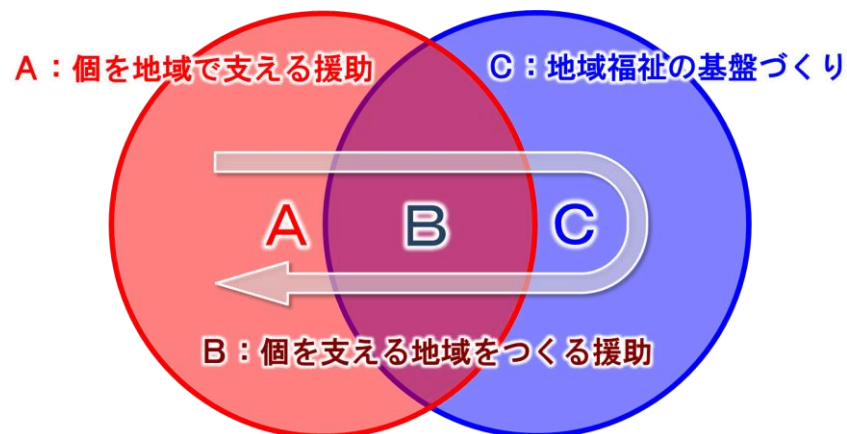


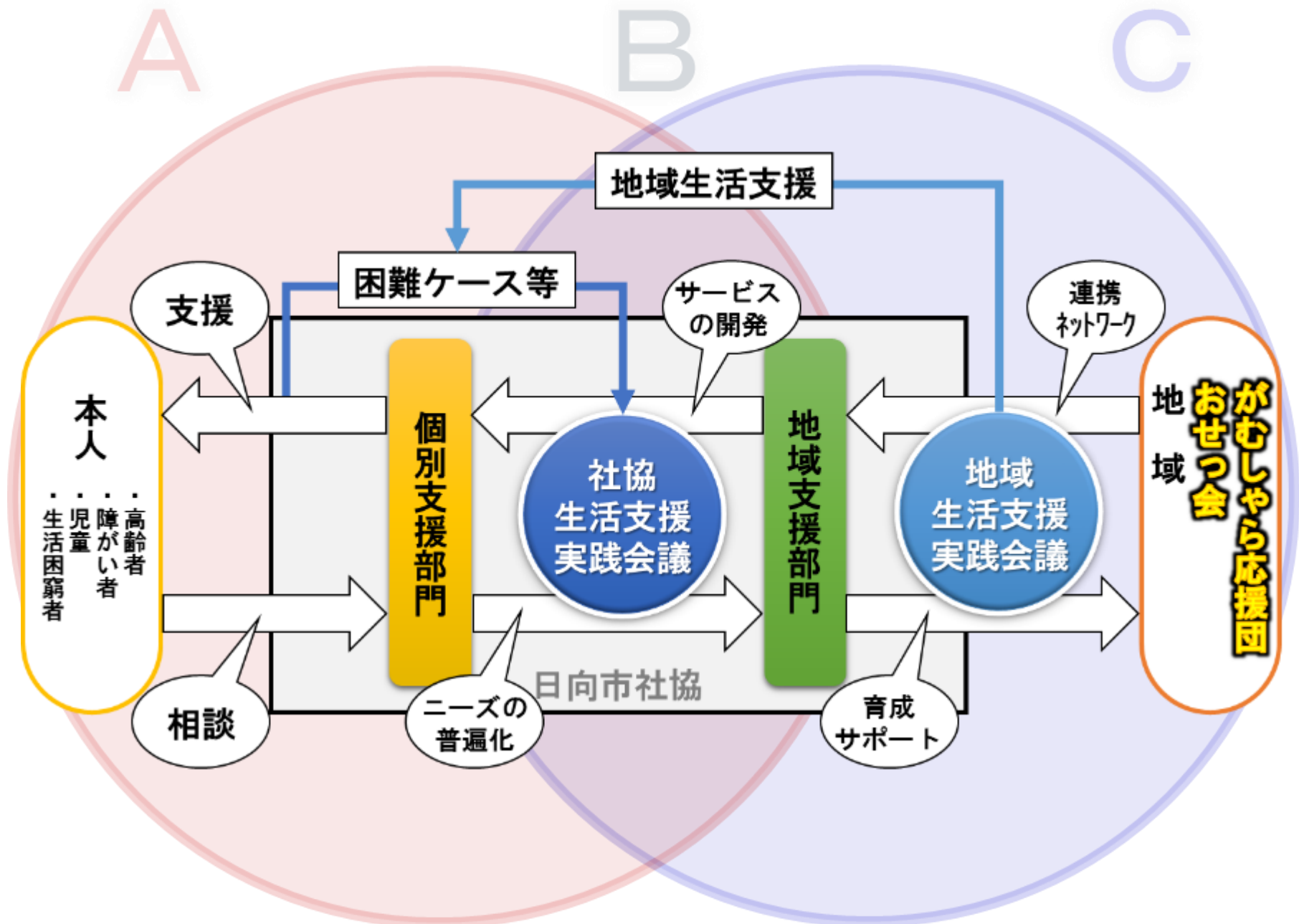
【平成30年～平成32年】

一人ひとりが主人公、
一人ひとりがサポーター

【事業の領域】

- A：個を地域で支える援助
- B：個を支える地域をつくる援助
- C：地域福祉の基盤づくり





平成25年11月11日

日向市地域福祉コーディネーター連絡会

通称：おせっ会 誕生

〔設置要綱 第1条〕 “目的”（何のために…）

地域福祉コーディネーターとしての“学び”を“実践”に活かすために、地域福祉コーディネーターの組織化を図る。また、地域福祉を推進するための専門職としての“役割”を果たし、地域住民、行政、福祉施設・事業所、関係機関・団体等と連携・協働しながら、地域の生活福祉課題の解決に向けた地域福祉活動に取り組み“地域の福祉力”を高めることを目的として設置する。

〔設置要綱 第3条〕 “活動”

- （1）地域福祉コーディネーター連絡会の開催
（活動把握・情報交換）
- （2）地域福祉推進に関する調査・研究活動（情報収集・資質向上）
- （3）地域福祉を推進するための人財育成とその組織化活動
- （4）生活福祉課題の解決に向けた地域福祉活動の開発・実践活動
- （5）地域福祉コーディネーター広報・啓発活動
- （6）その他、目的を達成するために必要な活動

1. 地域福祉サポーター・リーダー養成講座

地域福祉活動を推進するための“人財育成・組織化”



知る／気づく／考える／話す／想像

2. 日向市地域福祉活動企画コンテスト

地域福祉活動を推進するための“きっかけ”づくり



話す／共感・共有／想像／つながる

3. 地域福祉活動の実践

地域の実情に応じた地域福祉活動の“実践”

つどう／行動／知る／創造／伝える／続ける

平成26年9月20日

日向市地域福祉サポーター連絡会

通称：がむしゃら応援団

〔目的〕

地域福祉を推進するための地域の人財として、困ったときはお互いさまの精神で、住民主体による地域福祉活動の取り組みを**応援・支援**する。

団員一人ひとりの“**できること**”を合わせた“**総合力**”で、今、地域に必要とされる“**地域で地域住民が地域住民を支える仕組みづくり**”に取り組み、誰もが安心して暮せる福祉のまちづくりを推進する。

〔“がむしゃら応援団”が目指すもの〕

- ✧ 地域福祉サポーターの“できること”で地域福祉活動を**応援・支援**する
- ✧ 地域の困りごと、心配ごとに気づいて、つなぐアンテナ役
- ✧ **応援・支援者**としてのスキルアップと“**できることアップ**”
- ✧ **応援・支援**を楽しみ、共に成長する

日常生活圏域(6包括圏域)ごとの人財の分布 (H30. 4. 1現在)

	大王谷	財光寺	中央	日知屋	南部	東郷	市外	合計
おせっ会	3名	11名	8名	7名	2名	5名	—	36名
がむしゃら	12名	20名	19名	9名	9名	13名	10名	92名
合計	15名	31名	27名	16名	11名	18名	10名	128名

構成メンバー

おせっ会	がむしゃら応援団	
☐ 社協職員 ☐ 高齢者施設・事業所職員 ☐ 障がい者施設・事業所職員 ☐ 医療機関職員	☐ 福祉施設・事業所職員 ☐ 行政職員 ☐ 木材・加工販売 ☐ 主婦 ☐ 会社員（営業・建設業） ☐ 美容師	☐ 医療機関職員 ☐ 建築設計士 ☐ 農業従事者 ☐ 保育士 ☐ 電気通信技師 ☐ 学生 など

身近な地域(日常生活圏域)を中心に活動し、
課題解決をするための“地域の基盤づくり”を推進する。

〔地域福祉サポーターによる地域生活支援活動〕

社協生活支援実践会議で検討したケース・・・

「お金が・・・ 食べるものが・・・」 ※複合的な生活課題を抱える世帯
経済的困窮／社会的孤立／不登校／就労／食糧がない・・・

世帯に対する支援過程において、課題解決に向けて状況が進展しない
解決に向けての新たな支援の出口が・・・ （行きづまり状態）

子どもたちが十分に食事がとれていない状況を確認

地域で支援する実践として、相談支援員が
がむしゃら応援団の企画である**「ふくし食堂」**を地域限定で企画提案

～相談支援員の思い～

◇地域のつながりを構築したい

◇地域で起きていることを知ってもらい、できることを考え、動く！

相談支援員によるサポート

本人と地域関係者との
つながりや関係づくり



— 職員の動き —

◇実施に向けてた**企画会議実施** ※プラン立案、役割分担を確認

◇支援ネットワークを**集め、頼る！お願いする！**

Point：頼める、頼れる相互の関係性が… **ある？ ない？**

◇本人世帯や各関係者に対する**支援調整**

◇新たな**つながり構築！** ※新たな支援ネットワーク構築

◇活動内容の評価・分析



まずは・・・

協力店・事業所からの物品提供

事前に商店や企業と調整

“ゆるやかなネットワーク”が
形成されている

⇒だから・・・この事業ができる！

ふくし食堂で、
地域の住民同士の交流を図る

本人たちに、地域とのつながりを
感じてもらいたい

地域に、本人たちのことを知ってもらいたい





「あつくない？」

「おいしい？」

味見係り担当



同じ時間を共有することでお互いを知る

※福祉部関係者、自治会長・役員が“ふくし食堂”を知る

がむしゃら応援団、地域関係者、お店・事業所関係者
企画者＋地域住民＋協力・支援者＝ **新たなネットワーク**

終了後ミーティング、感想・意見

寄せられた内容は様々「やらんよりはやった方が…」

職員からふくし食堂関係者に対して、
課題解決を解決するための生活支援への協力依頼

「食べ物がない」「生活が苦しい」「つながりが…」

◇ 定期的なふくし食堂の実践ができないか？

地域とのつながり、そのための居場所を提供できないか？

◇ 食糧・物資の提供・確保 ※世帯に対する食糧・物資支援

[効果]

- (1) 地域福祉サポーターによる地域生活支援の実践
- (2) 多機関・多職種による生活支援
- (3) ネットワークから新たなネットワークを構築
“個人ネットワーク”が新たなネットワークを構築
- (4) 地域住民同士が気にかける意識の醸成
住民「あの子どもたちはどんげしちょっとかよ～」
⇒ 今後の地域生活での見守りや支援につながる
- (5) 新たな地域資源開発

[課題]

- (1) コーディネート機能の充実・強化
- (2) モチベーション維持・向上
- (3) 専門職、専門分野、行政での「我が事・丸ごと」の意識
- (4) 個別課題を通して地域課題を知る